

平成28年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

大洲市教育委員会

1 取組の目的

- 東日本大震災の発生を踏まえ、
- 次世代を担う児童生徒等に対し、発達段階に応じた「自助から共助への防災教育」を展開する。
 - 成果を県下全域に普及・推進するとともに、地域との連携により、総合的な防災力の強化を図る。

2 取組の内容

6月30日(木)13:40～15:15

【砂防学習会】



模型実験装置



3D体感シアター



降雨体験

愛媛県土木部の協力を得て、「砂防学習会」を5年生が受講した。土砂災害の種類、被害、対応策などについて模型実験装置を用いた説明を受けた後、土石流3D体感シアターや降雨体験等を疑似体験した。土砂災害の怖さや早めに避難することの大切さを理解することができた。

7月1日(金)13:20～13:50

【第2回避難訓練(小中合同)】



中学生が長浜小へ避難



小中合同で避難



全員で4階へ避難

第2回避難訓練は、地震と津波を想定し、近隣の長浜中学校と合同で実施した。まず地震が発生した想定で中学生が長浜中学校グラウンドに避難した後、津波が発生。二次避難場所になっている「住吉神社」への道が土砂崩れ等で通行できないため、長浜小学校4階が避難場所となり、長浜小学校の児童と共に校舎4階へ避難した。

7月1日(金)14:00～15:15

【防災授業】・【避難場所の現地踏査】



防災授業



避難場所へ向かう



避難場所の現地踏査

愛媛大学防災アドバイザー矢田部龍一先生を招いて、「防災授業」を5年生が受講した。矢田部先生から防災マップ作りについての説明があり、その後、避難場所現地踏査確認を行った。住吉神社（長浜小学校の津波発生時の二次避難場所）へ向かう避難経路の危険箇所についても確認しながら避難場所に行き、現地では、避難する時の注意点や避難場所の問題点などを学習した。

7月5日(火)13:40～14:40

【災害ボランティア講演会】



新谷小学校の宮本知恵先生を招いて、「災害ボランティア体験談～東日本大震災での体験を通して～」と題した災害ボランティア学習会を5年生が受講した。宮本先生は、東北大震災の被災地、南三陸町で災害ボランティアとして3度、また、広島の高雨災害、徳島の台風災害、そして今年の熊本大地震でも災害ボランティアとして活動された。それらの体験をもとに、災害ボランティアとして復興事業で活動した内容などを分かりやすく話していただいた。その後、児童は、自分が被災した時にボランティアとしてできることなどをグループで話し合うなど、災害ボランティアについて学習した。

7月12日(火)15:30～16:30

【第1回実践委員会】



愛媛大学防災アドバイザー、松山地方気象台、南予教育事務所、大洲市教育委員会、大洲消防署長浜支署、長浜公民館、自治会連絡会議長浜代表、長浜中学校、長浜小学校PTA会長、校長、教頭、担当者で構成した実践委員会を開き、事業計画等を確認した。

7月15日(金)10:30～12:05

【地域ボランティア体験学習】



「長浜クリーンアップ大作戦」と称して、全校児童で長浜海岸の清掃を実施した。地域の清掃活動を通して奉仕の心・共助の心を育てることを目的とし、肱川河口から長浜海岸で流れ着いたゴミを拾った。

7月25日(月)・26日(火)・28日(木) 【防災マップ作り】



主事からの聞き取り



公民館での学習



避難経路の危険箇所確認

校区内の10地区に分け、5年生が自分の住んでいる地区の「防災マップ」を作るために、現地踏査を夏季休業中に行った。グループで地区の公民館に行き、公民館主事さんに住んでいる地区の防災計画の説明を聞いたり、設置されている防災倉庫の中を見せてもらったりした。また、実際に自分の家から避難場所へ歩き、避難経路や危険個所の確認を行った。聞き取った内容や危険箇所などは、夏休みの宿題で自分のマップにまとめた。

8月23日(火)～25日(木)

【東北視察研修】



石巻 語り部から聞き取り



大川小学校の訪問



南三陸町 奇跡の一本松

実践委員長(長浜小校長)、長浜小防災担当者、市教委事務局の3名で、東日本大震災の被災地(宮城県仙台市、石巻市、南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市、釜石市)の視察研修を行った。東日本大震災から5年が経過した被災地の現況・復興の様子を実際に視察し、被害の甚大さを改めて実感した。また、気仙沼市立階上中学校、仙台市立岡田小学校を訪問し、被災した日の様子や被害の状況、避難所になった時の様子などを詳しく聞くことができ、今後の防災教育の方向性を学ぶことができた。

9月15日(木)13:40～1:15

【防災ボランティア学習(総合的な学習の時間)】



大洲市危機管理課の當川防災専門官を招いて、「防災ボランティア」学習を5年生が行った。校内に設置してある大洲市の防災倉庫の中を実際に見せてもらった。防災倉庫の中には、発電機、チェーンソー、簡易トイレ、燃料などがあつた。また、DVD「防災について」を視聴し、防災食や避難生活について学んだ。

9月16日(金)13:40～15:15

【防災ボランティア学習(総合的な学習の時間)】



避難所生活を体験させるために、「段ボール・シェルター作り」を5年生が行った。段ボールを切り取って、協力して丈夫な形を作り、シェルターを作り上げた。児童は自分たちで作ったシェルターに入り、窮屈さを体験した。

9月28日(水)13:40～14:25

【防災ボランティア学習(総合的な学習の時間)】



大洲市危機管理課の當川防災専門官を再び招いて、「防災ボランティア」学習を5年生が行った。まず、災害時の備蓄について学び、水と食料を3日分備蓄しておく必要があることを知った。また備蓄食品を試食した。お湯を入れるだけでドライカレーが簡単にできることを知り、自分たちも災害時のボランティアや手伝いができると分かった。

9月29日(木)10:00～10:15

【第3回避難訓練(地震)】



第3回の避難訓練は、地震が遊休時に起こった時の避難訓練を実施した。2校時の授業が終了した直後に、緊急地震速報を利用して訓練を行った。児童は「倒れない、移動してこない、落ちてこない」場所を見つけて隠れたり、伏せたりしながら安全なポーズで避難した。また、ダンゴムシのポーズ、サルのポーズについても確認した。

10月7日(金)10:30～12:05

【気象防災教室(理科)】



気象と防災の学習



落雷実験



雨粒の実験

松山地方気象台の職員を3名招いて、5年生が「気象防災教室」を受講した。まず、豪雨、竜巻、突風からの避難の仕方を学んだ。その後、雨粒の形を再現する実験と落雷実験を見せてもらうことができた。児童は気象についての専門家の話を聞いて、防災には正しい気象の知識が必要なることを学ぶことができた。

10月12日(水)10:00～10:20

【第4回避難訓練(地震・火災)】



第4回の避難訓練は、大洲消防署長浜支署の職員を4名招いて、地震とその後の火災発生を想定して実施した。緊急地震速報を利用し、まず机の下などに避難した後、運動場に全員避難した。訓練の様子を消防署職員に見てもらい、講評をいただいた。その後、6年生は、消防署職員の指導を受けながら消火器を使った消火訓練を行った。

10月30日(日)12:30～15:30

【防災学習参観日】



6年生の学級活動



防災マップの発表



5年生の防災学習発表



矢田部先生の講演

家庭や地域の防災力向上を目指し、全学級で防災に関する学習を公開した。災害に出会った時の対処方法、津波の怖さや避難の仕方、災害にあった時に自分たちにできることなどを発達段階に応じて学習することができた。

校区を7地区に分け、防災マップの発表を行った。各地区ごとの児童、保護者の前で、パソコンや作成した防災マップを用いて、危険箇所や避難経路、避難場所などを分かりやすく伝えることができた。

全校児童、保護者、地域の方に向け、「5年生による防災学習の発表集会」を行った。防災学習を通して学んだ「災害に対する正しい知識や対応方法を身に付けること」「命を守ることの大切さ」などを伝えることができた。また、手作りの防災頭巾や防災シェルターを展示したり学習のまとめを掲示したりして、全校児童や保護者、地域の方々に防災に対する意識を高めた。

防災学習参観日の締めくくりに、愛媛大学防災アドバイザーの矢田部龍一先生による講演会を開催した。地震、津波に対する命の守り方を分かりやすく話してくださり、保護者や5、6年生の児童たちは更に学習を深めることができた。

11月27日(日)8:30～12:00

【学芸会(5年生の劇「おそすぎないうちに」)】



5年生が防災学習のまとめとして、学芸会で防災に関する劇を発表した。劇の題名は「おそすぎないうちに」。あの2011年3月11日の東日本大震災で起こった「釜石の奇跡」を題材とした劇である。5年生が4月から学んできた防災学習を通して、備えをおこたらないこと、命の大切さ、今を一生懸命生きることなどを全校児童、保護者や地域の方々に訴えた。

3 取組の成果

- 地震災害や降雨災害などの自然災害について学ぶことで、災害から身を守ること、命を守ることの重要性、自ら考えて行動できるようになることの大切さを児童・教師共に学ぶことができた。
- 避難訓練をくり返し行うことで、児童が自ら考えて退避行動をとることができるようになった。
- 防災マップを作成して発表したことで、自分の住んでいる地域の危険箇所を知ることができただけでなく避難経路や避難場所を確認することができ、災害が起きた時の危険性や避難について関心をもつようになった。
- 災害ボランティア体験談を聞いて考えたり、防災シェルター作りや防災食の試食を経験したことで、災害にあった時に自分にできるボランティアがあることを学び、ボランティアへの意識が高まった。
- 台風接近や大雨・暴風が予想される時などの事前の対応をする際、想定外のことまで考えることができるようになり、教師の防災力が高まった。
- 保護者等にメール配信を行い、児童を引き渡す訓練を実際に行うことで、学校と家庭の意識の統一や連携が図れるようになった。
- 防災学習参観日を開催し、授業公開、防災マップの発表、防災学習発表集会、防災講演会などを実施したことで、全校児童、保護者、地域の方々の防災意識が向上するとともに、防災教育に対する理解が深まった。

4 今後の課題

- 児童は少しずつ防災に対する意識が高まってきている。今後、この意識の高まりを地域へ広げていく必要がある。
- 避難所の開設・運営などは地域の協力なしにはできない。今後、地域との連携を深める方法を考えていきたい。
- 今年度、児童や教職員、保護者が学習したり体験したりした貴重な内容を次年度につなげていくためにも、年間指導計画の作成と計画的実施に努めたい。